Ⅵ 統 計 豆 辞 典

「合計特殊出生率」について

15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性（未婚既婚を問わず）が、一生に産む子供の数にほぼ等しいといわれています。

太平洋戦争以降の合計特殊出生率は第１次ベビーブームの昭和24年に最高の4.32を記録してから下がり続け、昭和40年代はほぼ2.10台で推移していましたが、昭和50年に2.00を下回ってから更に低下を続け、平成14年には過去最低の1.32を記録しました。